

夏か

宵しやう

松まつ

口くち

月げつ

城じやう

寒かん往ゆき  
暑しよ来きる  
維これ  
自し然ぜん

何なんぞ  
驚おどろか  
三さん伏ぶく熱ねつ煎いる  
如ごとしと

夏か宵しやう讓ゆずら  
ず  
春しゅん宵しやう  
の  
好よき

竹ちく影えい濃なご  
の  
辺ほとり月つき抱いだいて  
眠ねむる

【作者】松口月城（一八八七〜一九八一年）（明治二十年〜昭和五十六年）・本名 松口栄太。雅号 月城。福岡県那珂川町今光に生まれ、満九十四歳で逝去。少年時代の月城は、独学で基礎医学を勉強し、満十八歳で医師の資格を取得。これは当時日本の最若年記録となっています。その後、開業医として医業に精進し、地域医療に貢献した。また、月城は医療の傍ら、漢詩、書道、南画など多彩な才能を発揮した。特に吟詠漢詩家としては、我が国の至宝であり、生涯で一万数千首にも及ぶ漢詩を作り、多くの人々の心に感銘を与えた。平成六年四月、松口月城記念館が建設されました。

【通釈】夏、日が暮れたばかりのころで、夜にはならない頃である。日中の暑さから解き放たれてくつろげるひととき。